

平成 10 年度
植物遺伝資源研究開発
基礎調査団報告書
- ウルグアイ、ヴェネズエラ -

平成 11 年 4 月

国 際 協 力 事 業 団

序 文

開発途上国では近年、農業生産増大などの観点から新品種育成への期待と、その育種材料である植物遺伝資源の収集、評価及び保存に対する関心が高まりつつある一方、地域開発による大規模な森林伐採などで熱帯林の減少と砂漠化が進み、自然生態系の変化などに伴い、野生種や在来種の絶滅、喪失が加速的に進みつつあります。

このため植物遺伝資源の収集・保存が国際的な急務になっていますが、一般的に途上国ではこの分野の技術力が低く、技術者や研究者が不足しているため、各国に対する協力が、ますます重要になってきています。

こうした事情を背景に、国際協力事業団は、植物遺伝資源の収集・保存に関する技術協力の可能性及び必要性を検討することを目的として、平成10年度は南米地域のうち、ウルグアイ東方共和国、ヴェネズエラ共和国両国を調査対象に選び、平成11年3月14日から3月28日まで、農林水産省農業生物資源研究所遺伝資源第二部集団動態研究所室長ダンカン・ヴォーン氏を団長とする「植物遺伝資源研究開発基礎調査団」を現地に派遣しました。両国は平成11年度に本分野への新規個別専門家要請を行うなど、遺伝資源研究開発に大きな関心を有するとともに、研究体制の強化に係る協力を我が国に期待している国であります。

本報告書は、同基礎調査の調査結果を取りまとめたものであり、今後、この分野の協力にかかわる関係者の参考になれば幸いです。

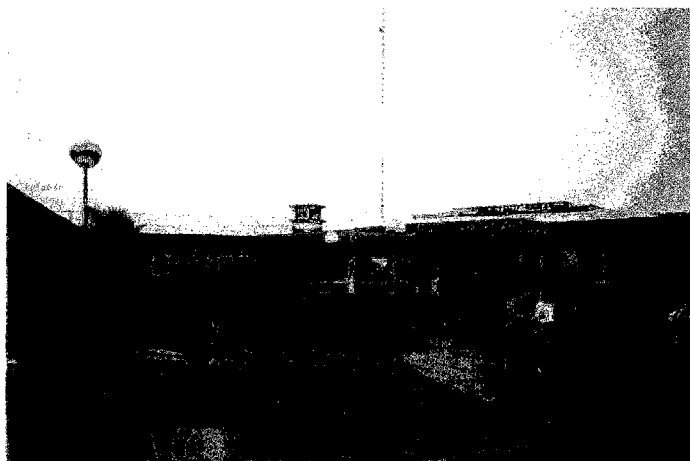
終わりに、本調査にあたってご協力頂いたウルグアイ及びヴェネズエラ両国政府関係機関、外務省、農林水産省、現地日本大使館の関係各位に深く謝意を表するものであります。

平成11年4月

国際協力事業団

農業開発協力部

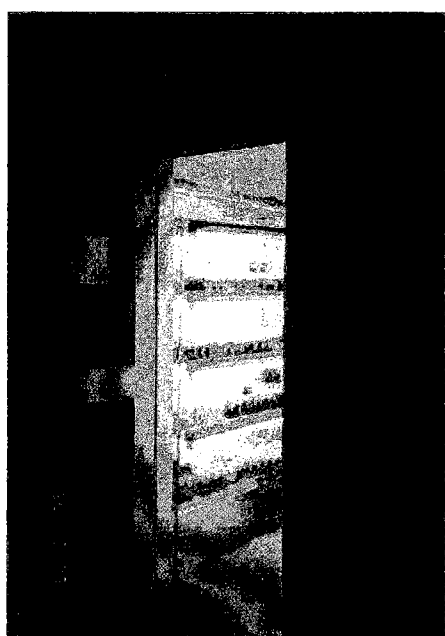
部長 鮫島 信行



ラスブルハス試験場



ラスブルハス試験場香料作物園場



ラスブルハス試験場 培養室



エスタンスエラ試験場種子庫



トレンタイトレス試験場



モンテヴィデオ植物園



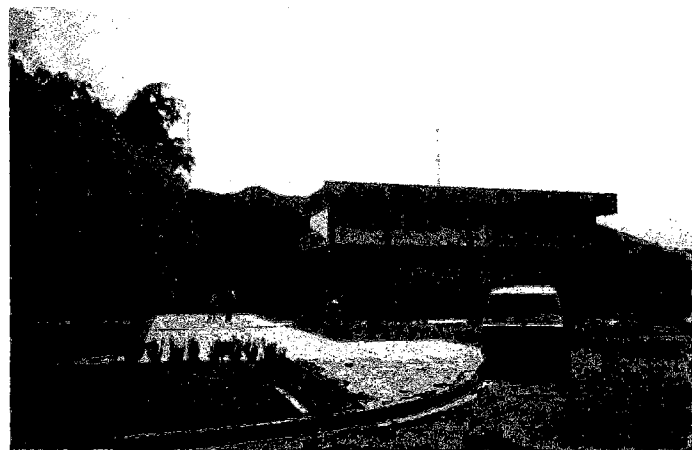
モンテヴィデオ植物園 温室



国立農牧研究所 (INIA) 本部



ヴェネズエラ農牧省



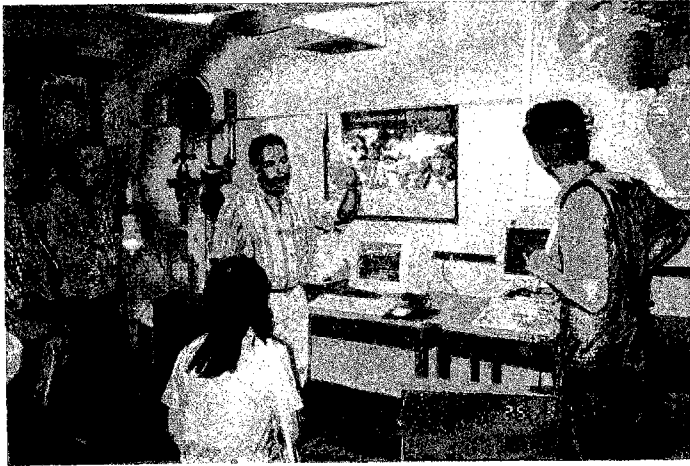
国立農牧研究基金 (FONAIAP)



中央国立農業研究所 (CENIAP)



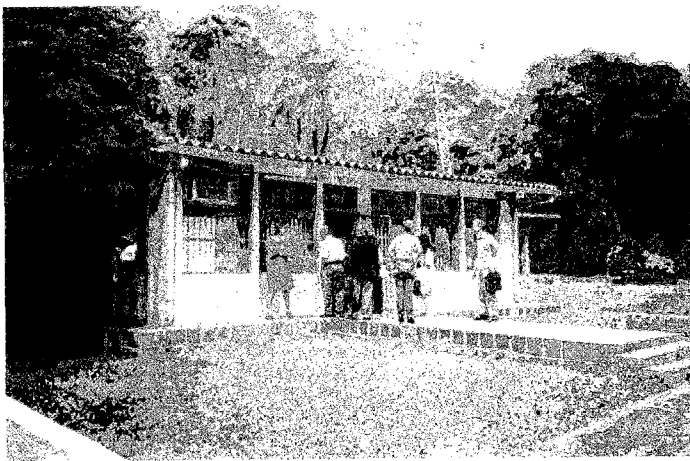
農業研究所 (IIA) 種子庫



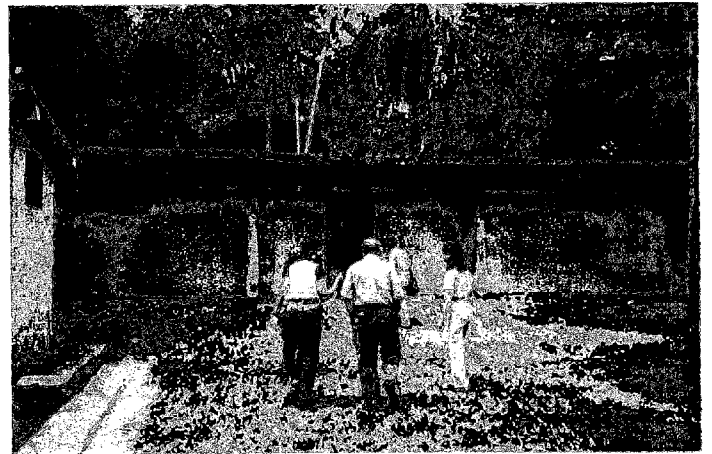
IIA データベース部門



IIA バイオテクノロジー部門



環境省ジーンバンク



環境省ジーンバンク 種子庫



環境省ジーンバンクフィールドジーンバンク
(パイナップル)



マラカイ植物園

目 次

序 文

写 真

1．基礎調査団の派遣	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	4
2．ウルグアイ国	8
2 - 1 国家開発計画等上位計画から見た植物遺伝資源事業の位置づけ	8
2 - 2 遺伝資源研究開発活動状況	8
2 - 3 国際機関及び他の先進諸国などの協力	10
2 - 4 我が国の協力の可能性	10
3．ヴェネズエラ国	13
3 - 1 国家開発計画等上位計画から見た植物遺伝資源事業の位置づけ	13
3 - 2 遺伝資源研究開発活動状況	13
3 - 3 国際機関及び他の先進諸国などの協力	15
3 - 4 我が国の協力の可能性	16

付属資料

1．ウルグアイ実施機関(INIA)組織図・組織概要	21
2．ヴェネズエラ実施機関(FONIAP/CENIAP)組織・所在地	23
3．両国に対する日本の植物遺伝資源関連分野での技術協力	27
4．収集関連資料一覧	38